

自然災害発生時における業務継続計画（BCP） 訪問系

法人名	地方独立行政法人岡山市立総合医療センター
事業所名	岡山市立せのお病院
管理者名	臼井 正明
住所	岡山市南区妹尾 850 番地
電話	086-282-1211

令和 6 年 4 月 1 日

岡山市立せのお病院

1. 総論

1) 基本方針

災害の発生に際して、次の目的を達成及び維持するものとする。

- ① 職員の生命を守り、安全確保に努める。
- ② 利用者の生命、身体を守るために最低限必要となるサービス機能を維持する。
- ③ 利用者の安否確認、安全確保に努める。

2) 推進体制

主な役割	部署・役職	氏名	補足
責任者	看護科 看護科長 リハビリ診療技術科 技師 長補佐	吉水 美貴 高瀬 千佳	
リーダー	看護科 管理看護師長 リハビリ診療技術科	荻野 香央里 永瀬 百子 大江 良幸	
現場担当者	リハビリ診療技術科	加藤 裕子	

3) リスクの把握

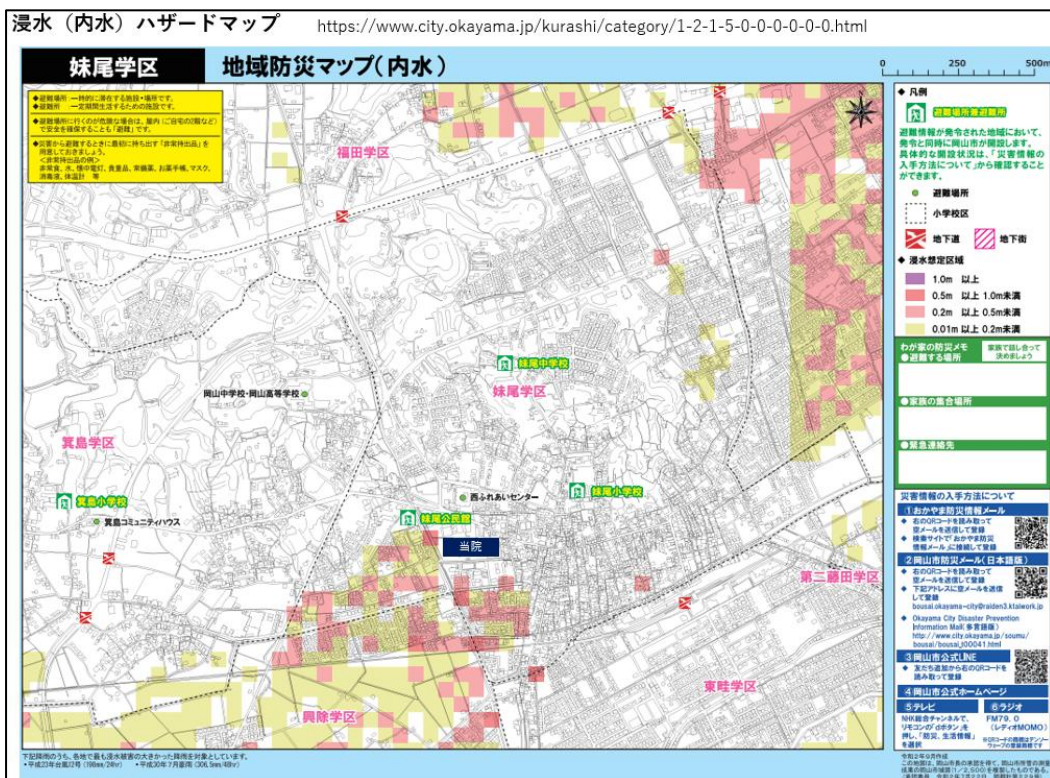
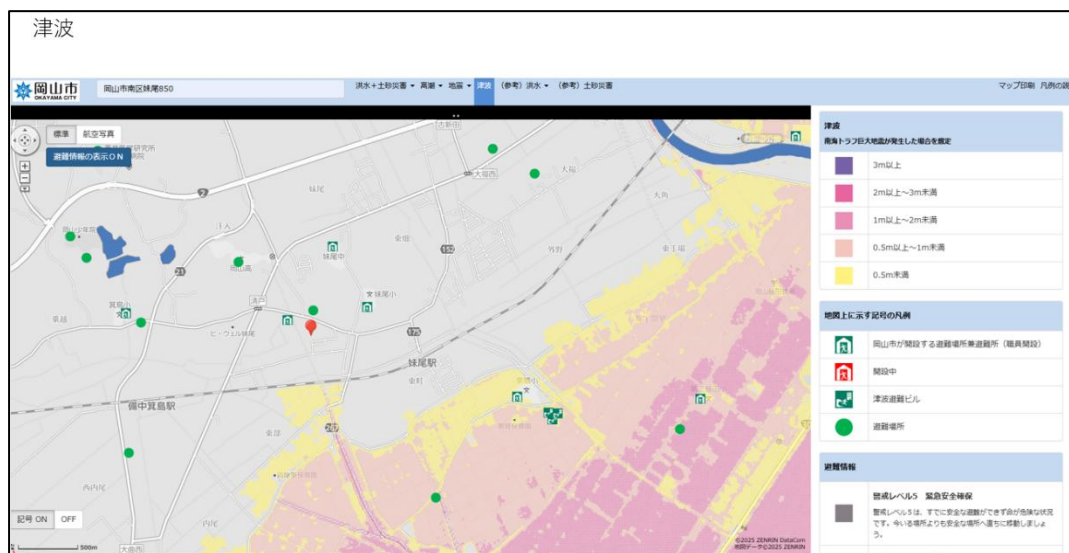
(1) 岡山市ハザードマップ（危機管理室）より（別紙参照）

南海トラフ巨大地震（最大クラスで想定）

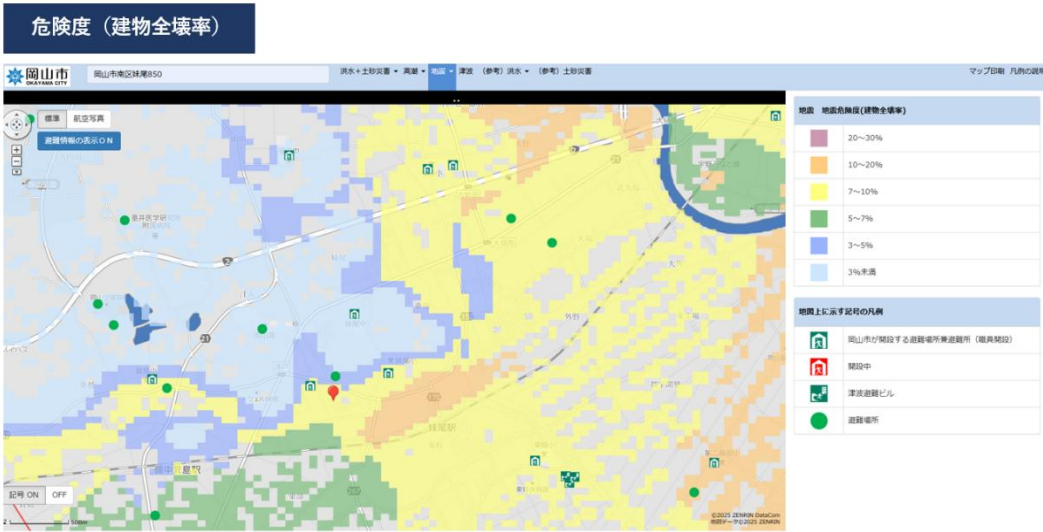
▼被災想定

- 笹ヶ瀬川からの距離は離れているため、大地震による津波は到達する範囲に位置していない。
- また、内水反乱の想定でも当院は浸水の範囲に位置していない。
- 地震による建物の全壊は揺れの強さや建物の耐震性、液状化の有無によって大きく変動するが、当院は液状化地域で建物の全壊リスクは高いと考える。

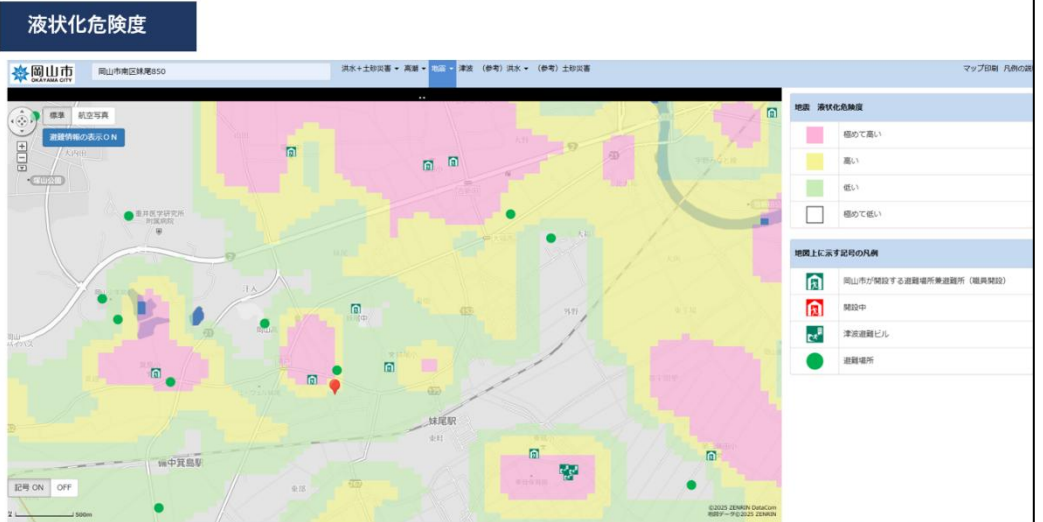
- 当院周辺地域は、干拓地であり地震による液状化現象により周辺道路が崩壊し、当院が陸の孤島となる可能性が高く、また、県道 21 号線 岡山児島線が液状化現象により通行不能となる可能性がある。
- 電子カルテやその他ネットワーク関係が寸断され使用不可。



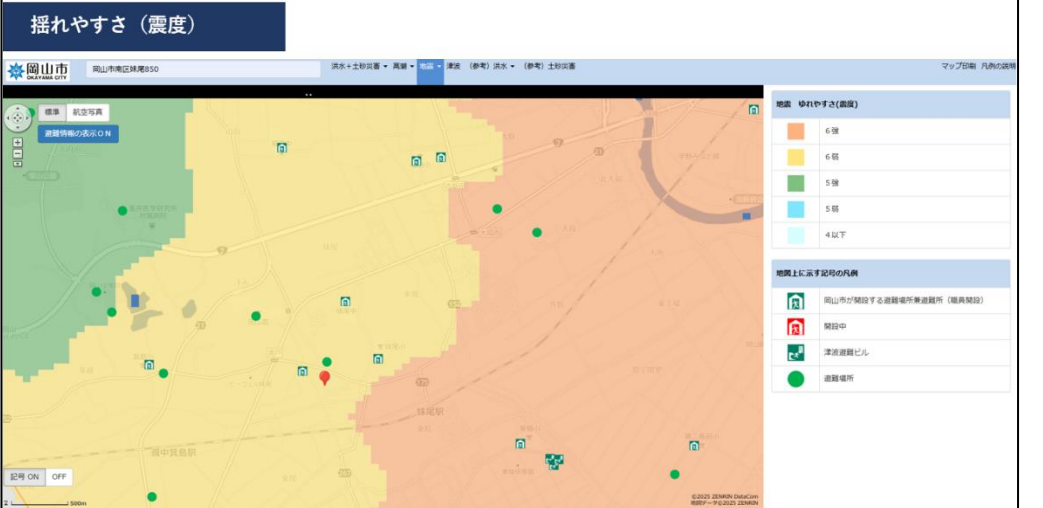
南海トラフを想定した場合 地震



南海トラフを想定した場合 地震



南海トラフを想定した場合 地震



▼ライフライン被害

	状況	内容
電力	停電	電力会社から電力供給が絶たれる ・一般回路用（白コンセント）電源は使用停止。 ・非常用（赤コンセント）電源は、自動的に非常用発電機からの送電に切り替わる。 ※非常用発電機の稼働時間は、消費電力（負荷）によって異なるが、約 2 日間。
水道（上下水）	断水	・貯水槽 有効水量約 50 t ・高架水槽 有効水量約 13 t ※1 日の使用量は多い時で約 40 t 使用（使用状況によって異なるが約 2 日間）
飲料水	備蓄を使用	入院患者、職員用の非常食は 3 日間備蓄している。それに加え訪問時に備蓄するか要検討
ガス	使用不可	震度 5 相当以上の地震でガスの遮断弁が働くと使用不可になる。 復旧には、はらだエネルギー（086-282-0033）連絡しガスメーターの復旧ボタンを押す。
携帯電話 スマホ	通信障害の可能性あり	被災地への音声通話の集中等により通信回線が混雑し、非常につながりにくい状態になる事が予想される。そのため、「携帯ショートメール」、「Line」、「災害用伝言ダイヤル（171）」を使用する。
ネットワーク	寸断	法人の情報システム課より復旧の指示があるまで使用不可。

▼院内のライフラインなどの停止想定期間は以下のとおり

2011 年東日本大震災は震度 7 の地震が発生。復旧日数は、下記の通り。

震度 7 の場合、電力：1 週間、水道：3 週間、ガス：5 週間でほぼ復旧（リスクを考慮した日数）

	当日	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目
電気	停電 ※非常用発電機 使用		停止						
飲料水	備蓄を使用			再調達					
水道（上下 水）	貯水槽・高架水槽 を使用		停止						
ガス	使用不可		停止						

通信電波	通信障害	停止
▼電気が止まった場合の対策		
	院内	訪問
医療機器： 吸引器、人工呼吸器	非常用発電機使用可	ポータブル機器があるか確認 無ければ使用不可
情報機器： 電子カルテ、情報系端末	非常用発電機使用可	iPad、スマホのみ 赤コンセントで充電可
照明器具	非常照明（約 2 日間。非常 電源と別回路） ※非常照明が切れたら懐中電 灯、ランタン使用	懐中電灯、ランタン使用
冷暖房器具	使用不可	使用不可
通信手段： インターネット、電話、テレビ	・災害用伝言サービス （171） ・携帯ショートメール ・Line	・災害用伝言サービス （171） ・携帯ショートメール ・Line
▼ガスが止まった場合の対策		
	院内	訪問
調理器具	カセットコンロ（ボンベタイプ）	原則、使用不可。 ※訪問先の状況による
給湯設備	・カセットコンロ、ポット（非常用 電源から使用可） ・入浴は中止し、清拭にて対応	原則、使用不可。 ※訪問先の状況による
▼水道が止まった場合の対策		
	院内	訪問
飲料水	備蓄用の飲料水 ※3 階 SPD 室奥	訪問担当職員 1 人あたり 6 ℓ（3 日分）を確保しておく
水道（上下水） ・貯水槽 有効水量約 50 t ・高架水槽 有効水量約 13 t ※1 日の使用量は多い時で約 40 t 使用（使 用状況によって異なるが約 2 日間）。 （補足）震度 6 以上の地震で感震器が働いて 緊急遮断弁が閉じ、水道局からの水が断水	約 2 日分のみ。無くなり次第、 以下の対応 ●トイレ：簡易トイレ、おむつ 使用 ●食事：デスポ食器 ●入浴：清拭にて対応	●トイレ （利用者） ・おむつ着用： 初動時・人手不足時などは緊 急避難として排泄介助の要・ 不要に関わらずオムツ着用。オ ムツ交換は定時に集中的に実 施。 （職員） ・備蓄品の簡 易トイレを使用 する。

		・女性職員のために、生理用品などを備蓄しておく。 <参考：簡易トイレ> 便器にかぶせるだけでトイレが使えるタイプもある。使用後は、「薬剤」が水分を吸って汚物を固化。約 1 ヶ月間、悪臭や菌の発生を抑えてくれる。 ●汚物対策 ・排泄物などは、ビニール袋などに入れて密閉し、衛生面に留意して利用者宅で処理する。
--	--	--

▼通信が寸断された場合の対策

※災害発生時は、被災地への音声通話の集中等により通信回線が大変混雑し、非常につながりにくい状態になる事が予想される。そのため、電話以外の連絡手段を決めておく。

	院内	訪問
通信 電話が不通の場合、公衆電話の使用。（公衆電話は、災害発生時、費用・通信制限がかからない。）	●災害伝言ダイヤル：171 伝言の録音方法 171 にダイヤル ↓ 音声ガイダンスが流れる。 録音の場合 1 ↓ 音声ガイダンスが流れる。 被災地の人の電話番号を入力 XXXX XXXX-XXXX 伝言の再生方法 171 にダイヤル ↓ 音声ガイダンスが流れる。 再生の場合 2 ↓ 音声ガイダンスが流れる。 被災地の人の電話番号を入力 XXXX XXXX-XXXX ●LINE グループ LINE をあらかじめ作成しておく ●携帯電話のショートメール	
		・電話が不通の場合、公衆電話を使用。（公衆電話は、災害発生時、通信制限がかからない。） ・電力を確保するため防災用ポータブル電源を常備する。

▼システムが停止された場合の対策

	院内	訪問
PC（情報系端末など）	●電力供給停止などによりサーバー等がダウンした場合、手書き対応も検討する ●その他必要書類（契約書や個人情報など） 重要書類は浸水リスクの低い場所（例えば 2 階以上）に保管する。	

▼移動手段が使用できなくなった場合の対策

	院内	訪問
移動手段		・公用車が使用できなくなった場合は、自家用車の使用を認める。 ・自家用車が使用できなくなった場合は、自転車や公共交通機関の使用を認める。 ・自転車は、定期的に点検整備し、常に使用できる状態にしておく。 ・ガソリンは、常時半分以下にしないようにしておく。 職員の安全が守られ、職員の自宅から利用者宅への訪問が可能な場合は、直行直帰を認める。

4) 優先業務の選定

【優先業務】 利用者の安否確認を含む訪問業務 【訪問業務再開の判断基準】 ・通常の移動手段か代替策の移動手段が確保の有無。 ・道路等が倒壊の影響の程度。 ・利用者の居住する地域の被災状況。 ・訪問業務につける職員の人数。 ・利用者に対して、支援できる家族等の有無。 【復旧後の目標】 可能な限り、訪問業務が必要な利用者に 24 時間以内にサービスを提供する。
--

5) 災害情報の把握

災害情報収集先	URL など	
厚生労働省ホームページ	https://www.mhlw.go.jp/index.html	
岡山県ホームページ 危機管理課	https://www.pref.okayama.jp/soshiki/12/	
岡山市ホームページ 防災・災害支援	https://www.city.okayama.jp/kurashi/category/1-2-0-0-0-0-0-0-0-0.html	

6) 研修・訓練の実施、BCP の検証・見直し

(1) 研修・訓練の実施

【BCP 内容周知研修】

目 的：職員への BCP 周知

実施月：年 1 回以上

方 法：BCP 内容を読み合わせおよび必要に応じてブラッシュアップ

【職員安否確認訓練・初期対応訓練】

目 的：災害時に速やかに職員の安否確認、被災状況の確認ができる。

実施月：年 1 回以上

方 法：南海トラフ地震を想定し、安否確認、建物、通信機器等の被災状況の確認を分担して行う。

【災害時図上訓練】

目 的：事業所周辺地域のハザードマップを確認する。

方 法：職員同士でハザードマップを確認し、危険箇所や避難経路共有する。

(2) BCP の検証・見直し

在宅ワーキングで定期的に BCP の内容や見直しを図り、防災管理委員会で決定する。

2. 平常時の対応

1) 人的資源

(1) 指示命令系統の明確化

発災後、災害対策本部長（病院長）または災害対策副本部長（看護科長 or 事務長）が訪問責任者へ指示を出す。その後、利用者への指示命令は、訪問責任者が行い現場リーダーと密に情報交換を行い、迅速かつ安全に対応する。

(2) 災害別に、事業所内外での避難場所・避難方法

	地震	風水害
第1避難場所	妹尾公民館（自院から 210m。徒歩 3 分）	妹尾公民館（自院から 210m。徒歩 3 分）
第2避難場所	妹尾小学校（自院から 550m。徒歩 8 分）	妹尾小学校（自院から 550m。徒歩 8 分）

(3) 職員に関して生じる問題の想定

状況	影響のある事項
被災時の勤務状況（事業所勤務・訪問中・休み）が職員ごとに異なる場合	対応が異なる可能性
職員の出勤手段が途絶した場合	出勤困難となる可能性
職員の家族に未就学者、要介護者がいる場合	出勤困難となる可能性
職員の居住地が被災した場合	出勤困難となる可能性

(4) 緊急連絡（安否確認）の方法

- ・院内の緊急連絡網を使用。
 - ・グループ LINE を使用。
 - ・緊急連絡システムを使用
- ※通信困難な場合は、ショートメールを送信。

【安否確認は以下の場合に実施】

- 震度 5 強以上
- 警戒レベルが出た場合（下図参照）
- 訪問中など移動手段が途絶した場合など、自身の判断で緊急と判断した際。
- 責任者が必要と判断した場合
- 安否報告する者が必要と判断した場合

▼警戒レベルおよび避難情報 日本気象協会の「避難情報に関するガイドライン」参考図

警戒レベル	危険度分布	とるべき行動	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
5	災害切迫	命の危険 直ちに安全確保	氾濫特別警報	大雨特別警報	土砂災害 特別警報	高潮特別警報
4	危険	危険な場所から 全員避難	氾濫危険警報	大雨危険警報	土砂災害 危険警報	高潮危険警報
3	警戒	危険な場所から 高齢者等は避難	氾濫警報	大雨警報	土砂災害警報	高潮警報
2	注意	避難行動を確認	氾濫注意報	大雨注意報	土砂災害注意 報	高潮注意報
1		災害への心構え	早期注意情報			

(5) 災害時における対応内容

警戒レベル	防災気象情報	地震	対応	
			時系列	対応内容
警戒レベル 5	・大雨特別警報 ・氾濫特別警報 ・土砂災害特別警報 ・高潮特別警報	震度 5 強以上	前日対応 （左記が予測される場合）	利用者、ケアマネに、当日の状況によっては、サービス提供の有無を連絡する旨を伝える。
			当日午前 8 時 30 分の時点で発令中	① 利用者全員の安否確認 ② 訪問を中止することによって日常生活に支障があると考えられる利用者は対応策を協議し、訪問する。
			サービス提供中に発令	
			警報解除	安全が確認できれ、通常業務に切り替え
警報レベル 4	・氾濫危険警報 ・大雨危険警報 ・土砂災害危険警報 ・高潮危険警報	震度 4 以上	前日対応 （左記が予測される場合）	利用者、ケアマネに、当日の状況によっては、サービス提供の有無を連絡する旨を伝える。
警報レベル 3	・氾濫警報 ・大雨警報 ・土砂災害警報 ・高潮警報		当日午前 8 時 30 分の時点で発令中	①利用者全員の安否確認 ②訪問を中止することによって日常生活に支障があると考えられる利用者は対応策を協議し、訪問する。
			サービス提供中に発令	
			警報解除	安全が確認できれ、通常業務に切り替え
警戒レベル 2	・大雨・洪水注意報 ・氾濫注意報		当日	通常通りの業務対応
警戒レベル 1	早期注意情報			

（５）職員の参集基準

責任者、リーダーは、災害の種類や程度に応じて参集するか判断する（別紙災害に応じた参集ルールを参照）

- ・事業所から徒歩圏（10 分以内）に居住する職員は責任者やリーダーの指示のもと参集する。
- ・居住地等が交通網の寸断などで自身の安全が守られない場合や家族等の安全が守られない場合（要配慮者や養育が必要な児がいる場合）等については、参集は不要。

（６）職員のシフト調整で生じる問題の想定と対応策

シフト調整の原則

- ・長時間勤務、連日勤務の職員は都度確認し、配慮する。
- ・人員確保が必要な場合は、関係団体や近隣事業所へ看護職員の応援依頼を検討する。

（７）労務管理で生じる問題の想定と対応策

状況	対応策
長時間労働になった場合	就業時間を超えた時間については時間外手当を支給 夜間の場合は、時間外手当に加え深夜割増手当を支給
災害時に欠勤した場合	規定の休日の対象とする

（８）労働災害で生じる問題の想定と対応策

職員が労働災害により負傷した場合、事業所は速やかに労働災害（療養補償給付・休業補償給付・障害補償給付・遺族補償給付・葬祭料・傷病保障年金・介護補償給付）の手続きを行う

（９）必要品の備蓄

※被災時に必要な備品はリストに整理し、計画的に備蓄する。

定期的にリストの見直しを実施する。備蓄品によっては、消費期限があるため、メンテナンス担当者を決め、定期（２月に一度）物品管理を行う。

【生活備蓄】

品名（例）	数量（例）	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
飲料水	2ℓ×15本			
ポリタンク	10ℓ×3個			
災害トイレ	100回分			
食事	30食分			
懐中電灯・ランタン	3個			
ポータブル電源	1～2個			
安静ベット	1台			
軍手	6双			

【医薬品・衛生用品・日用品】

* 1ヶ月の使用料を確認し、備蓄量の目安とする。

品名（例）	数量（月）	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
マスク				
ガーゼ				
ゴム手袋 S				
ゴム手袋 M				
ロングタイプ手袋 S				
ロングタイプ手袋 M				

(10) 業者連絡先一覧

業者名	連絡先	業務内容
帝人ヘルスケア株式会社	080-2545-2524	HOT、CPAP
フクダライフテック中国株式会社	080-1636-2991	HOT、CPAP
自治体病院共済会 保険部	03-3263-3397	損害保険等
iBow	06-6243-3355	訪問看護電子カルテシステム
ワイズマン	0120-98-5512	介護報酬請求システム

3. 情報資源

(1) 事業所情報の一覧の作成

事業所名	住所	電話番号	事業所番号	訪問範囲	職員数
岡山市立せのお病院	岡山市 南区妹 尾 850 番地	086-282-1211	3 3 1 8 9 0 3 0 5 5 号	岡山市（光南 台、灘崎、妹尾、 福南、芳泉、芳 田、興除、藤田、 福浜、福田、吉 備、御南）中学 校区、早島町	14 名

(2) 院内の緊急連絡先一覧および BCP 対策本部組織図（別紙参照）

(3) 利用者の連絡先一覧の作成

訪問看護：iBow（クラウド）にて管理、また内科 3 診の書棚に対象者のファイルを保管。

訪問リハビリ：リハビリ事務室の書棚に対象者のファイルを保管。

4.利用者（BCP の視点からみると顧客）

（１）利用者に関して生じる問題の想定と対策

状況	対策
利用者の安否確認ができない可能性 安否確認方法が煩雑になる可能性 サービス関係者が重複して行う可能性	事前に利用者ごとに取り決めをしておく

（２）利用者の安否確認方法の検討、生活し続けられる状況の構築・個別支援計画の作成

--

5. 緊急時～復旧における事業継続にむけた対応

1) 体制

(1) BCP 発動基準

緊急時は、事業所所在地周辺において、下記災害の程度による被災状況、社会的混乱などを総合的に勘案し、災害対策本部長または副本部長（看護科長 or 事務長）が必要と判断した場合、BCP を発動する。

【地震】 震度 5 強以上が発生したとき

【風水害】 特別警報が発表されたとき

【その他】 職員の出勤状況や移動手段の断絶状況を勘案して、責任者が必要と認めた場合

(2) 緊急時体制の決定

責任者	代替者①（リーダー）	代替者②現場担当者
災害対策本部長	災害対策副本部長	看護科 管理看護師長 リハビリ診療技術科 技師長補佐

(3) 災害時対応体制

主な役割	部署・役職	補足
災害時対応本部	災害対策本部長	災害対応全般について一切の指揮を行う。行政や職能団体等との連絡、情報収集を行う。
利用者情報確認	看護科 管理看護師長 リハビリ診療技術科 技師長補佐	担当する利用者の安否確認や訪問可否の判断 等を行う。
物資調達チーム	現場担当者	必要物資の調達は、看護・リハビリ職員で分担して行う。

(4) 対応拠点

場所	第 2 候補場所	第 3 候補場所
岡山市立せのお病院	妹尾公民館（自院から 210m。 徒歩 3 分）	妹尾小学校（自院から 550m。徒歩 8 分）

(5) 重要業務の継続

- ① 自事業所の職員の命を守る行動が最重要業務
- ② 被災後 6 時間以内に、事業運営体制が安全に機能するか確認
- ③ 被災後 24 時間以内に、利用者の安否確認 利用者の訪問優先順位の決定
- ④ 被災後 72 時間以内に、安否確認をはじめとする訪問看護業務の再開（訪問・電話確認・連絡調整・記録等）

	発災直後	6 時間	発災後 1 日	発災後 3 日	発災後 7 日	発災後 1 か月
職員出勤率	3 割	3 割	5 割	8 割	10 割	10 割
ライフライン	停電・断水	停電・断水	停電・断水	復旧		
業務基準	職員の安全確保が最優先業務	被災状況の把握				
職員安否確認	安否確認					
被災状況の情報収集		被災状況の情報収集				
利用者安否確認		・安否確認 ・生命にかかわる状態（人工呼吸器等）の利用者や独居で連絡が取れない利用者を優先的に実施				
訪問の再開				必要な訪問のみ再開		

(6) 優先業務と復旧優先度

それぞれの事業の継続に必要な業務（重要業務）は、重要度（必要性レベル）に応じて以下のとおり分類する。

重要度については、上から順に高◎、中○、低△、停止×として分類する。重要度高の業務を災害 時に対応すべき業務とし、災害対策本部の判断により中、低を取り入れて業務を行う。

優先業務と復旧優先度重要度【訪問看護】

高◎、中○、低△、停止×

業務	重要度と目標復旧時間	回数	業務要素	対策（平時と異なる代替対応）
状態観察	◎ 継続	適宜	体温計、血圧計、パルスオキシメーター、ストップウォッチ、聴診器	訪問カバンに入れておく
内服管理	◎ 継続	適宜	電話	直接訪問
			水、コップ、オブラート、ペン、お薬カレンダー	備蓄
療養相談	△ 1か月以内	適宜	職員	出勤者で対応
注射の実施と管理	◎ 継続	適宜	薬剤、注射セット	備蓄
吸引	◎ 継続	適宜	吸引器、電気	平時から充電
			水、吸引チューブ、ティッシュ、コップ	備蓄
呼吸器管理 HOT 管理	◎ 継続	適宜	電気	平時から充電
			蒸留水、アンビュー	備蓄
バルン交換	○ 2週間以内	適宜	バルンセット、尿器	備蓄
褥瘡処置	○ 1週間以内	適宜	電気、エアマット	空気が抜けないようにする。空気チューブを折り曲げて縛る
			水、ボトル、被覆材	備蓄
軟膏塗布	△ 1か月以内	適宜	軟膏	家族対応
保清	△ 2週間以内	適宜	水	備蓄、ウエットティッシュ
			タオル、バケツ、ごみ袋、着替え、ドライシャンプー	備蓄
排泄介助・摘便	○ 3日以内	適宜	水	備蓄、ウエットティッシュ

			手袋、おむつ、オイル、ごみ袋	備蓄
口腔ケア	◎ 継続	適宜	水	備蓄、口腔ケア用ウエットティッシュ
			コップ、歯ブラシ、ガーグル ベース	備蓄

2) 人的資源

(1) 安否確認と参集

① 職員の安否確認の実施

職員名	安否確認	状況	訪問中の場合 利用者名と利用者の状況	備考
	無事・負傷・不明	訪問中 事業所 休日		
	無事・負傷・不明	訪問中 事業所 休日		
	無事・負傷・不明	訪問中 事業所 休日		

② 職員の参集

(2) 避難場所・避難方法の決定

	場所	備考
第1避難場所		
第2避難場所		

(3) 職員の管理

① 出勤状況を確認する。

職員名	状況	3日後の出勤	7日後の出勤

② 出勤率の確認

日数	出勤率（全体の職員数÷出勤可能職員数）	備考

③ 勤務シフト

--

④ 休憩・宿泊場所

休憩場所	宿泊場所

3) 物的資源

(1) 建物等の破損個所の確認

例> 建物・設備の被害点検シート		状況（いずれかに○）	対応事項/特記事項
建物・設備	躯体被害	重大／軽微／問題なし	
	エレベーター	利用可能／利用不可	
	電気	通電 / 不通	
	水道	利用可能／利用不可	
	電話	通話可能／通話不可	
	インターネット	利用可能／利用不可	
	ガラス	破損・飛散／破損なし	
	キャビネット	転倒あり／転倒なし	
	天井	落下あり／被害なし	
	床面	破損あり／被害なし	
	壁面	破損あり／被害なし	

	照明	破損・落下あり／被害なし	

6) 利用者（BCP の視点からみると顧客）

（1）利用者の安否確認

例＞利用者名	安否確認	住まい状況	生活状況	備考
	無事・負傷・不明	自宅・避難所()・その他 ()		
	無事・負傷・不明	自宅・避難所()・その他 ()		
	無事・負傷・不明	自宅・避難所()・その他 ()		

4. 地域・他組織との連携

1) 地域の連携体制の構築

（1）地域多職種連携のネットワークの役割の確認とネットワークづくり

施設・法人名	連絡先	連携内容

【連携関係機関：訪問看護ネットワーク】

施設・法人名	連絡先	連携内容

【連携関係機関：ペアステーション】

施設・法人名	連絡先	連携内容

(2) 訪問看護部会・職能団体等の役割の確認とネットワークづくり

(3) 利用者をめぐる関係者の役割の確認とネットワークづくり

(4) 緊急時にネットワークを生かした対応

2) 受援体制の整備

(1) 事前準備

(2) 利用者情報の整理・職員情報の整理

(3) 地域への災害支援

職員連絡先一覧

名前	住所	連絡先	緊急連絡先	本人の状況	家族の状況	災害時の出勤の有無	備考

安否確認シート

名前	安否確認	状況	訪問中の場合：利用者名と利用者の状況	備考
	無事・負傷・不明	訪問中・事業所・休日		
	無事・負傷・不明	訪問中・事業所・休日		
	無事・負傷・不明	訪問中・事業所・休日		
	無事・負傷・不明	訪問中・事業所・休日		
	無事・負傷・不明	訪問中・事業所・休日		
	無事・負傷・不明	訪問中・事業所・休日		